

登録コード	A3594316	開講年度	2026					
授業科目	専攻研究Ⅰ					担当教員	三谷 壘一	
英文授業名	Thesis ResearchⅠ							
単位数	2	講義期間	後期（随時）	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	3年生（研究室配属後の学生対象）
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	2022Aカリ，2021Aカリ，2020Aカリ，2019Aカリ							
	【2022年度以前カリウム対象】専門的な知識や研究能力を修得している					⇔	・食品機能を明らかにするための基本的な解析技術を身につけることができる。	
	【2022年度以前カリウム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している					⇔	・自分の研究分野が持続可能社会にどのように貢献するのかを説明できる。	
	2026A3編（24A），2025A3編（23A），2024Aカリ，2023Aカリ							
	【2024年度以前カリウム対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。					⇔	・食品機能を明らかにするための基本的な解析技術を身につけることができる。	
	【2024年度以前カリウム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。					⇔	・自分の研究分野が持続可能社会にどのように貢献するのかを説明できる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	全期間を使用して卒業研究に必要な実験技術の修得を目指します。ある程度、技術の説明を行った後に、卒業研究のテーマの説明を実施します。研究テーマは複数の候補から自分で選択しますが、年度によっては研究テーマの優先度が異なる可能性があるために、こちらで指定する可能性もあります。							
(5)授業計画	学期の2/3を使って、必要最低限の実験技術を修得します。具体的には①培養細胞の取り扱い、②タンパク質の解析、③遺伝子の解析、④大腸菌を用いた遺伝子組換え技術、④動物の取り扱いなどです。残りの1/3で、専攻研究IIに繋がる個別の研究テーマを取り組みます。※ただし、進捗度合いによっては個別の研究テーマを取り組めない場合もあります。ですが、研究テーマを取り組めない場合でも成績に影響はありません。 最後の授業回に授業アンケートを実施する。							
(6)自主学習の指針	研究テーマに関連する既存の報告を学術論文や専門書を用いて学習してください。こちらで学術論文の紹介をすることをもありますが、大学は自ら学ぶところなので自主的に学習することを推奨します。定期的に、自身のデータを並べて、研究結果を論理的に組み立てる習慣をつけると進んで研究ができるようになってきます。							
(7)成績評価の基準	①実験手法に関する原理を理解しているか、②指導教員の助言に基づき実験を進めることができるか、③実験ノートは他人が読んでも理解できるように記述されているか、④分からないまま放置せずに積極的に助言を求める行動ができているかを評価の基準とします。							
(8)事前事後学習の内容	日頃から情報収集に努め、研究テーマに関連する先行研究や関連分野について自主的に学習すること。分からないことはまず自分で調べる。その後、教員と相談し教員の意見を伺う。自ら到達した意見と教員の意見で議論を行い、よりよい結論へと導く。							
(9)テストやレポートの予定	毎月実験ノートを見せてもらいます。実験ノートの未提出者には単位の付与ができない場合もあります。							
(10)成績評価の方法	成績評価の基準の内容から総合して判断します。目安としては、先の4つの項目について、標準的達成レベルにあれば80点、理想的達成レベルにあれば100点とします。							
(11)質問、相談への対応および連絡先	随時受け付けます							
(12)履修上の注意	研究結果を社会に還元するは、研究するものの責務です。それと同時に研究結果は研究室の財産であることを自覚して、無闇に研究内容を学外に漏らすなどの行動は謹んでください。研究室では実験に関わる安全上の決め事に従って下さい。							
【教科書】	なし							
【参考書】	適時紹介する							